

## フランスにおける多言語・多文化社会の歴史 言語と移民に焦点を当てて

### 1. 多言語の国フランス上の集権主義と地域主義運動

俗フランス語の定着と変化

・紀元後100年頃（ラテン語の口語形態）が定着 中世初期に俗フランス語へ変化 = 俗

フランス語の地域差形成

南部 - 俗フランス語の連続変化 オカ語

北部 - 俗フランス語の急速な変化 オカ語（多数の方言の集成）

13世紀頃に王権の伸張に伴い周辺地方（フランドル）方

言が共通フランス語の地位を獲得

王権の強化に伴い標準フランス語形成

・口語の諸方言オカ語 / 文語のラテン語の線状

状態 16世紀まで不変

・1539年王令：国王裁判所を公手続で判決する言語

フランス語

フランス語の優位性を国民的文化の形成の志向を打ち出す

国家語の使用を全国に強制し多様な地域言語の封入

を目的

・ 1635年の設置

フランス語の純化・洗練を目的とした辞書の編纂 規範文法の制定

言葉の大切さを説く

地域や民衆語の品性を排除 少数者の文化や地域文化の独自性を認め

ず文化的中央集権化を推進する役割

フランス語は国家的規範語として独占 大革命後の諸体制も今日に至る（1992 憲法改正）

### フランス語上の集権主義

フランス語統一は容易な事ではない

革命期以降の言語調査：標準フランス語の制定を全国民に

知らせる

初等教育（義務教育の確立は1880年代）活字印刷の普及

標準フランス語の普及と正統言語の消滅

地方方言語の復権運動

政治的併合（絶対王政期）による編入の周辺地域に少数言語が残り（参考資料参照）

近代以降の中央集権に対する地域主義運動の展開

第1期（19世紀半ば）：社会主義者や反革命の王党派を背景とした文学運動中心

第2期（19世紀末～第1次世界大戦）：貴族・地方名士を中心とした経済的・政治的運動

義務教育 教育現場の言語問題

第3期（両大戦間期）：政治体制変革を目的とした運動 一部は成功

1930年代後半は地方語教育を市町村が奨励

第4期（第2次世界大戦後～1960年代）：少数言語の使用人口が減少し始めた危機感運動の拡大

1951 法律

第5期（1968年以降）：5月革命を背景とした生活圏根拠文化運動

を自覚重視の運動

1960～70年代 地域主義運動の最盛期

・高度経済成長による社会変化に対応して地域主義運動が高揚

形態は多様：地場産業解体に抵抗する運動 農漁民の直接行動 全地域支援運動 外

部者の産業独占に起因する環境問題と結びつき、地域文化復興の運動が  
1980年代以降、国内植民地と隣接した地域主義運動の政治的緊張が緩和、EU統合の進展が地域文化的多様性を促進する評価あり

## 2. 移民と共和主義

19世紀から移民を多く受け入れた王国（イギリス）は「外国人嫌」の感情が文化的摩擦は、国家の基本原則を問う現象

- ・ 現代の移民: 旧植民地諸国からの移民の増加、文化的摩擦と共和主義の基本原則（**ラシテ** laïcité 政教分離、世俗性）が問われる現象

旧植民地出身移民の定住化

第2次世界大戦後の経済復興と高度経済成長に伴う労働力不足

1950年代は近隣諸国（イギリス）から移民労働者を受け入れ

1960年代は諸国から中東から移民労働者が増加

・ 1973年 経済悪化、1974年 外国からの労働者受け入れ停止

不法入国、不法滞在者の増大、家族合流の増加、不法就労の厳罰措置

1980年代は移民の社会運動の噴出、主体は移民第2世代（フランス籍持たない人々）

Beur世代の出現（BeurはArabeの逆転読み）、SOS人種差別

Beur世代を組織し、人種差別反対運動を展開

・ 背景: 相違への権利の主張、1981年 誕生の権利、少数民族者の権利擁護公約に

依拠

移民の数は現在約350万人（人口の5.8%）、フランス第二の宗教

移民の存在が社会で必要とされる必要性が増加、私

人的空間に留まる公的空間に不可視化が進む

・ 市民の日常生活への影響、労働市場での差別、医療 etc.

・ 1989年 問題、フランスの原理に抵触する見方への批判（国論二分）

2004年 宗教の禁止法、イスラーム教派（三浦信孝）の優勢

国籍法論争、移民の国民 nation とは何かという問題

・ 血統主義と同時に **出生地主義** を取り入れるフランス国籍法、出生地主義

で議論

1993年 民法: 国籍の自動取得を廃止、申請制に

1998年 改正民法: 再自動取得

1990年代に新に顕在化した移民

移民 - 滞在許可証持たない非正規移民

・ 1996年 移民の占拠、警察による差別排除、「間違った

主張」

フランス共和国の**普遍性原理**: 自由と平等の価値観を受け入れ、出身民族や宗教問はず一人ひとりが社会で受け取らなければならない

・ 逆特定の民族宗教団体の形成を忌む帰属意識を持つ

と(= **コミュニタリズム** communautarisme) を嫌う傾向

フランスの多文化主義、国民統合の原理

フランス共和主義の課題: 「人間を特定の差別的な枠組みに押し込めず、個人の自発的意志を尊重し、平等社会を実現する」(三浦信孝) の

困難な課題を果して実現